

第1部 文明と地域世界の形成

2 南アジア世界・東南アジア世界の形成

2 ヒンドゥー国家と社会の展開 (教科書 P. 42~44)

① グプタ朝による再統一 [p. 42]

[] (320 ごろ~550 ごろ)

- ・ 4 世紀前半 北インドを再統一
- ・ [] のとき…最盛期
- ・ ガンジス川流域：州県制による直轄支配
周辺部：諸侯に土地の支配を認める分権制
- ・ 5 世紀後半～ エフタル族の侵入などにより衰退

② 古典文化の成熟 [p. 42]

[] 文学

- ・ チャンドラグプタ 2 世の保護のもとで開花
- ・ カリダーサ (『シャクンタラー』) などが活躍
- ・ 中国僧 [] は『仏国記』に都市生活をえがく

[]

- ・ アーリヤ人の特権的宗教から脱皮
- ・ 最高神の [] (創造・破壊の神)・[] (世界維持の神) が家や村々の神と結びつく
- ・ 社会生活の規範として『[]』を編集

學術

- ・ [] (5 世紀~)
総合的な [] として留学生が集まる
- ・ 自然科学が発達
[] の概念や十進法
- ・ 諸学の共通語としてサンスクリット語が使われる

[]

- ・ グプタ様式

→敦煌や法隆寺などの仏教画に影響

③ ヒンドゥー諸王朝の分立 [p. 43]

ヴァルダナ朝 (7世紀前半)

- ・ [] が北インド統一
- ・ ヒンドゥー教, [] を保護
- 唐僧 [] がおとずれる

ヴァルダナ朝崩壊後

- ・ 北インド
 - クシャトリヤの子孫 [] (王子)を自称する小王国が群雄割拠
- ・ 小王国の戦乱つづく
 - 交易・都市の衰退
 - 都市の商人に基盤をおく仏教が衰退
 - 地域社会にヒンドゥー文化が浸透
- ・ 各地で地域言語(ベンガル語・ヒンディー語など)や文化が発達

④ カースト制度の社会 [p. 44]

[] (ジャーティ)

- ・ グプタ朝以降, ヴァルナ制度の枠内で, 職業を同じくする集団が細分化したもの
- ・ 固有の []
- ・ それぞれの [] を守る
- ・ カースト集団どうしは []

↓

カーストとヴァルナはインド社会を統合するヨコとタテの糸